

表 - 1 今後の河川水質管理の指標項目（案）

河川水質管理 の視点	河川水質の確保すべき機能		確保すべき機能を表す項目	指標項目の分類				今後の河川水質管理指標項目(案)		
				住民との協働に優れた項目	感覚指標に係る水質項目	機能に関して指標性のある水質項目	雨天時調査の必要な項目	住民との協働による測定項目	河川等管理者による測定項目	
人と河川の豊かな触れ合いの確保	快適性 (利用にあたって快適であること)	水域全体のきれいさ		ゴミの量	ゴミの量	-	-	-	ゴミの量 透明度 (簡易COD) 川底の感触 (簡易COD) 水の臭い、(簡易DO)、 (簡易COD)	SS、濁度、(BOD) (BOD)、(T-N)、(T-P)、 (クロロフィル) (DO)、(BOD)
		水の透明感 (水のきれいさ)		透視度、SS、濁度、 水の色、泡、 (BOD(簡易COD))	透視度、水の色、 泡、(簡易COD)	-	透視度 SS、濁度 (BOD)	-		
		川に入った 快適性	川底の感触	川底の感触、(SS)、(濁度)、 (BOD(簡易COD))、 (T-N)、(T-P)、(クロロフィル)	川底の感触、 (簡易COD)	(BOD)、(T-N)、 (T-P)、 (クロロフィル)	(SS)、(濁度)	-		
			水に触れた感覚	水温、粘性	水温	-	水温、粘性	-		
	臭い	水の臭い、臭気、(臭気度)、 (BOD(簡易COD))	水の臭い、臭気 (簡易DO)、(簡易COD)	(DO)、(BOD)	(臭気度)	-				
安全性 (利用にあたって安全であること)	衛生学的安全性 (触れる、誤飲の安全性)		糞便性大腸菌群数 大腸菌群数、大腸菌、 ダイオキシン類 環境ホルモン	-	-	糞便性大腸菌群数、 大腸菌群数、大腸菌、 ダイオキシン類、 環境ホルモン	-		糞便性大腸菌群数	
豊かな生態系の確保	生息、生育、繁殖	呼吸		DO、SS、 (BOD(簡易COD))	簡易DO、(簡易COD)	-	DO、(BOD)	DO、SS	簡易DO、(簡易COD)	DO、(BOD)、SS
		毒性		NH4-N、 Zn、ダイオキシン類、 環境ホルモン	簡易NH4-N	-	NH4-N、Zn、 ダイオキシン類、 環境ホルモン	NH4-N	簡易NH4-N	NH4-N
		生物の生息		水生生物の生息、(水温)、 (pH)、(BOD(簡易COD)) (T-N)、(T-P)	水生生物の生息、 (水温)、(簡易pH)、 (簡易COD)	-	(BOD)、 (T-N)、(T-P)	-	水生生物の生息 (水温)、(簡易pH)、 (簡易COD)	スコア法 (pH)、(BOD)、 (T-N)、(T-P)
利用しやすい水質の確保	安全性	毒性 (消毒副生成物含む)		(TOC)、(BOD)、(COD)、(SS)、 トリハロメタン生成能(NH4-N)、 健康項目	-	-	(TOC)、(BOD)、 (COD)、(SS)、 トリハロメタン生成能、 (NH4-N)、 健康項目	(TOC)、 (トリハロメタン生成能)、 (NH4-N)、	-	トリハロメタン生成能(NH4-N)、 (TOC) 糞便性大腸菌群数 2-MIB、ジオスミン SS、濁度、NH4-N
		微生物		原虫類、ウィルス、 糞便性大腸菌群数、 大腸菌群数、大腸菌	-	-	原虫類、ウィルス、 糞便性大腸菌群数、 大腸菌群数、大腸菌	原虫類、ウィルス、 糞便性大腸菌群数、 大腸菌群数、大腸菌		
	快適性	臭い	2-MIB、ジオスミン、 臭気度、(T-N)、(T-P)	-	-	2-MIB、ジオスミン、 臭気度、(T-N)、(T-P)	2-MIB、ジオスミン			
		味覚	異臭味、(TOC)、 (COD)	-	-	(TOC)、(COD)	(TOC)、(COD)			
	維持管理性	浄化処理の維持管理性	SS、濁度、NH4-N	-	-	SS、濁度、NH4-N	SS、濁度、NH4-N			
下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保	下流域の富栄養化や閉鎖性水域(ダム、湖沼、湾)の富栄養化への影響が少ない水質レベルであること。		アオコ、淡水赤潮、 透視度、透明度、 (T-N)、(T-P)、クロロフィルa、 (TOC)、(12ケイ酸)	アオコ、淡水赤潮、 透視度、透明度	クロロフィルa、 (12ケイ酸)	(T-N)、(T-P)、 クロロフィルa、(TOC)	(T-N)、(T-P)、 (TOC)	-	(T-N)、(T-P)	
河川の基本的特徴の表現			水温、流量、流速、水位 BOD(簡易COD)、 SS、濁度、pH、 水生生物の生息 (1フレッシュ度)	水温、簡易COD、 簡易pH (1フレッシュ度)	-	BOD、SS、濁度、pH 流量、流速、水位 水生生物の生息	SS、濁度	水温、簡易pH、 簡易COD、 流れの状況	BOD、SS、濁度、pH、 流量、流速、水位	

*1この項目は情報提供のみに限られる

*2今後の調査・研究が必要である項目

上記の視点に対して、水質以外の項目として川への近付き易さや、河道形態などが影響してくる。そのため、水質管理を行う上では、これらを考慮して検討を行う必要がある。
現在国土交通省で設置している水質自動監視装置では、水温、pH、DO、濁度、COD、NH4-N、T-N、T-P等の測定を行っている。また、水位観測所において水位の観測を行っている。

表の見方

- ・（ ）内の指標項目は、今後のデータの蓄積を行い、水質指標として継続すべきか、あるいは他の項目で代替すべきかを判断するために、調査を行う項目
- ・太字は評価可能な項目
- ・下線は特に指標性の高い項目を表す